

Q01 共通テスト「歴史総合、世界史探究」 はどのように出題されますか？



A

- 歴史総合（主に18世紀以降の世界と日本の歴史）と、世界史探究の全範囲から出題される。
- 覚える用語自体は、少なくなると推測される。
- 歴史総合の範囲は、「近代化」「大衆化」「グローバル化」に関する内容に注目。



歴史総合が範囲に入っているということは、世界史だけではなく、日本史の内容も出題されるのですね。

そうです。ただし、日本史的な問題は歴史総合の範囲なので、「主に18世紀以降の日本の歴史」に限られます。



世界史を中心に勉強している受験生の皆さんが一番不安に思うのは、共通テスト「歴史総合、世界史探究」には、歴史総合の内容、つまり日本史の内容が含まれていることでしょう。

しかし、不安を感じる必要はありません。近年始まった共通テストは、かつてのセンター試験と比較して、**覚えておかなければならない用語は減少しているからです。**

まず、共通テストでは、資料や図版、グラフや統計などの読解問題が増えました。また、ある史実についての「見方」と「根拠」の組合せを選ぶ問題など、センター試験のような文章の正誤を判断する問題や年代を古いものから並べかえる問題とは異なった問題も見られます。その分、歴史用語や年号

を英単語のように一問一答形式で暗記しておけばすぐに答えがわかるような問題は、減少しているのです。

そのため、定期テストなどで文章の空欄穴埋め問題ならきちんと点数がとれている人でも、実際の共通テストの問題を解いてみると、けっこうむずかしく感じるはずですよ。共通テストは、がむしやらに教科書の太字の用語だけを覚えればよいというテストではないのです。

ではどのように学習すればよいのでしょうか。その答えは、「今は、どういう時代を、どういう分野で、学んでいるのか」「この時代は、前の時代から、何がどう変化したのか」などという、時代の**枠組み**や特徴などの、大きな視点を最初につかんでおくことです。

こう説明すると、むずかしく聞こえるでしょうか？ しかし、これらは、教科書の章などの**タイトル**や**扉のページ**で説明されていることなのです。

たとえば「歴史総合」のタイトルは、「近代化」「大衆化」「グローバル化」に大きく分けられています。したがって、そのような視点を重視して出題されると考えられます。また、学習指導要領に示されている、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための例、すなわち「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の観点を、意識しながら学習してみましょ

Q02 共通テスト「歴史総合,世界史探究」には、他にどのような特徴がありますか？



A

- 大問5問中、最初の1問が歴史総合の内容、残り4問が世界史探究の問題。
- 配点は、4分の1が歴史総合。
- 思考力・判断力が問われ、解答に時間がかかる。

(2022年11月公開の試作問題より)



●歴史総合の出題は全体の4分の1

共通テスト「歴史総合,世界史探究」における、歴史総合と世界史探究の割合は、以下のようになっています。

- ・ 大問でいうと、5問中、最初の1問が歴史総合、残り4問が世界史探究。
- ・ 問題数でいうと、33問中、9問が歴史総合、24問が世界史探究。
- ・ 配点でいうと、100点中、25点が歴史総合、75点が世界史探究。



配点の4分の1が歴史総合なのですね、思っていたよりも多いなあ。

ですが、Q1で見たとおり、歴史総合の問題は、出題される大きなテーマが推測できますよ。



●世界史探究は全時代・全地域・全分野から出題される

世界史探究は、大問ごとに大きなテーマはありますが、そのなかの小問では時代や地域はバラバラに出題されることが多く、教科書で学習する順に出題されるわけではありません。分野も、政治史、社会・経済史、文化史などが、バランスよく出題されます。



近現代史もやはり出るんですね。政治史以外の、社会・経済史も文化史もきちんと勉強しないといけないし……。

学校の授業でまだ近現代史を学んでいなくても、この本で枠組みだけでも先に見ておくとよいでしょう。



●問題の特徴は、「思考力・判断力を問う」こと

共通テストの問題の大きな特徴は、「思考力・判断力を問う」ことです。具体的には、以下の点があげられます。

- ・ 歴史事項の内容や、因果関係、時代の概観から判断する問題。
- ・ 文字資料・図版・グラフ・統計などを用いた読解問題。

文章や会話文を読んで判断する問題、単純な正誤判定などではなく設問の意図を把握する必要がある問題、複数の資料から総合的に判断する問題などが増えたため、センター試験のときより、解くのに時間がかかる傾向があります。



共通テストを受けた先輩が、「本番は時間が足りなかった！」と言っていました。

それだけ、読む文章の量が多くなっており、深く考えないと解けない問題が増えたということです。



Q03 共通テスト「歴史総合、世界史探究」は、どのように勉強すればいいのですか？



A



- 知識は、資料を読解した情報とつなげられるように、整理・理解して学習する必要がある。
- この本で、「流れ」と「枠組み」を整理して理解しよう。

共通テストの問題の特徴は、「思考力・判断力を問う」ことだと言いました。問題の資料を読解しただけで解ける問題は多くありません。教科書で学んだ、歴史総合と世界史探究の知識があることが大前提となります。資料や図版、グラフなどから読み取った情報を、もっている知識とつなげて選択肢をしぼり込んでいくことが必要だからです。

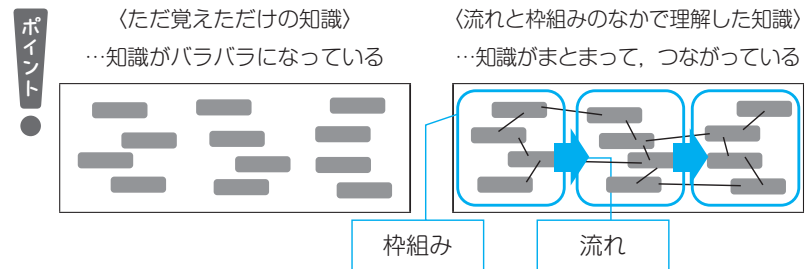
共通テストは、時代・地域・分野の偏りなく満遍なく出題されます。センター試験に比べれば覚えておくべき用語の数は減っているとはいえ、歴史総合と世界史探究の全範囲の学習が必須です。すなわち、教科書2冊分の理解と知識、かなりの量があります。

しかも、教科書の歴史用語や年号の知識を、英単語のように単純に一問一答形式で覚えているだけでは、資料や図版、グラフなどから読解した情報と、覚えた知識がなかなかつながらないことが多いでしょう。情報と知識が結びつき、情報から知識が思い出せるようなかたちで、知識を整理し、理解しておく必要があります。

そこでまず必要になるのが、歴史総合と世界史探究の全体の、「流れ」と「枠組み」の整理と理解です。

「流れ」と「枠組み」を理解すると、以下の点で、今後の歴史総合と世界史探究の学習が進みやすくなるでしょう。

- ① 今後、新しく学習した歴史用語や内容も、「この時代・地域の用語や内容だな」と歴史全体の流れや枠組みのなかに入れることで、他の用語とのつながりがわかりやすくなり、理解しやすくなります。
- ② 時代の流れと枠組み、特徴、全体像を理解し、そのなかには歴史用語をひもづけることで、考え方の土台ができて、資料を読解したときに「これはこの内容の話だな」と思い出しやすく、共通テストで使える知識になります。



他に共通テストの勉強を進めるにあたって、気をつけるべき点がありますか？

学習する際には、資料・図版・グラフなどを意識して見ておくことと、過去の共通テストや模試を解いて問題形式に慣れしておくことです。共通テストは問題形式が特徴的なので、早めに本番形式の問題に挑戦してみましょう。

